



刊夕日四十月五

日刊 發行部編輯人 川崎文治 本社下町番地(電話六三〇番) 電話六三〇番

第一版 五錢 第二版 五錢 第三版 五錢 第四版 五錢 第五版 五錢 第六版 五錢 第七版 五錢 第八版 五錢 第九版 五錢 第十版 五錢 第十一版 五錢 第十二版 五錢 第十三版 五錢 第十四版 五錢 第十五版 五錢 第十六版 五錢 第十七版 五錢 第十八版 五錢 第十九版 五錢 第二十版 五錢 第二十一版 五錢 第二十二版 五錢 第二十三版 五錢 第二十四版 五錢 第二十五版 五錢 第二十六版 五錢 第二十七版 五錢 第二十八版 五錢 第二十九版 五錢 第三十版 五錢 第三十一版 五錢 第三十二版 五錢 第三十三版 五錢 第三十四版 五錢 第三十五版 五錢 第三十六版 五錢 第三十七版 五錢 第三十八版 五錢 第三十九版 五錢 第四十版 五錢 第四十一版 五錢 第四十二版 五錢 第四十三版 五錢 第四十四版 五錢 第四十五版 五錢 第四十六版 五錢 第四十七版 五錢 第四十八版 五錢 第四十九版 五錢 第五十版 五錢 第五十一版 五錢 第五十二版 五錢 第五十三版 五錢 第五十四版 五錢 第五十五版 五錢 第五十六版 五錢 第五十七版 五錢 第五十八版 五錢 第五十九版 五錢 第六十版 五錢 第六十一版 五錢 第六十二版 五錢 第六十三版 五錢 第六十四版 五錢 第六十五版 五錢 第六十六版 五錢 第六十七版 五錢 第六十八版 五錢 第六十九版 五錢 第七十版 五錢 第七十一版 五錢 第七十二版 五錢 第七十三版 五錢 第七十四版 五錢 第七十五版 五錢 第七十六版 五錢 第七十七版 五錢 第七十八版 五錢 第七十九版 五錢 第八十版 五錢 第八十一版 五錢 第八十二版 五錢 第八十三版 五錢 第八十四版 五錢 第八十五版 五錢 第八十六版 五錢 第八十七版 五錢 第八十八版 五錢 第八十九版 五錢 第九十版 五錢 第九十一版 五錢 第九十二版 五錢 第九十三版 五錢 第九十四版 五錢 第九十五版 五錢 第九十六版 五錢 第九十七版 五錢 第九十八版 五錢 第九十九版 五錢 第一百版 五錢

行興大別特超



火事と喧嘩は江戸の華ジャンとなりや火の中纏持と組の頭
新門辰五郎 十卷上映
 ◇明石緑郎千草香子 坂東豊昇共演◇
 ◇大衆文藝白熱の二人神篇◇
 民衆化せる時代記歌 舞伎劇(浄瑠璃入り) ◇マキノブダクシ ヨンが沈滞せる斯界 投せし清涼劇 菅原傳授手習鑑の内 演(義大夫出語)吾津 團三郎特別出演 説明者 水戸・町田 林・富岡・丸山・總 出演
手習子屋 八卷
 大谷友三郎・松浦月 枝・玉木悦子・市川 小文治・杉狂児・主 演(義大夫出語)吾津 團三郎特別出演 説明者 水戸・町田 林・富岡・丸山・總 出演
十三日 より
有聲座

清々しい 夏の新装を飾る
單帯
紹小紋
紹の帯皮……等
 逸品多数荷揃いました
中野吳服店
 電話六七番

德島縣、當金屋、製家傳の藥
退痛散 特約店 **大平屋藥店**
 平町一丁目 電話六四二番
 本藥は當金屋に於て天長三年今より壹千四百八十六年 前より製造し居る藥にして服用者より非常なる賞讃を 博しつつあり
原齒科醫院
 平町土橋通り電話三一三番

常磐文藝
 無言の囁き
 すすき生
 チラと視線が逢ふた瞬間 知らぬまに微笑が交される 頬は紅の血潮にほてり 清眸は星のそのの如く輝き 微かに唇がをのゝく それは戀を知るものゝ 無言の囁きです
 君はるけし
 すゞき生
 はるかなるみ空を仰ぎ いくたびか わびしくおはす君が身に 心はやれど 我が誠の君がみ胸の銀線に

ふれざりしや否や? 久遠の神秘をひそめて ほの暗き宵闇のみ空に あまたの星群は 愛の眸をまばたけど いとしき我が君の すまひはるけし
 痴人へ
 みど子生
 友人のBは 女を掴んだとて 迂頂天になつてゐる。 犬ころや小猫ちやあるまい し 人間一匹をそううまく掴め るかい。 それがうそと思ふなら 心中しようと申込んでみる

最新流行の 各種洋服着荷 學生服は…… 此際破格の勉強 四季を通じて 洋服の御用は
十字屋洋服店
 平町停車場新通
 福島縣平町五丁目
吉田屋 染工場
 (電話五五八番) (振替仙台五三二八番)
 徒弟入用 一三四歳位ノ者四五名
御挨拶
 折角學びました左記の技藝を寶の持ち腐れにするのも惜しいご存じましてお望みの方々には御練磨のお相手を致しますから御遠慮なくお訪ね願ひます
一、奥田式裁縫の方法
 裁板、ひのし、篋、饅等の諸道具を一切用えず地質を少しもいためずに着物や羽織が僅か三四時間で出来上る最新裁縫法にて奥田女史が卅年の苦心を拂つて案出致したもので御座います。
二、縮緬細工
 御祝儀用として優美な鯛や寶船等が鉄を入れず糊を使はず自由自在に出来上ります、ですから材料が少しもいたまらず不用になつて後、解きますとその他のものに用ゐられるのが特徴で御座います。
 此外茶の湯、盛花(小原式)、生花(古遠州流)等
 是非一度お遊びがてらにお出掛け下さい
 平町白銀町十一番地
高橋さく子

遠いお空でキラ／＼光る星の様に 飛び去つてしまふから。 彼女は字の通りの賣女だよ
 四—二八
一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由に讀める 川崎回文庫
 電話六三〇番 (申込次第規則書進呈)

モラ明けの各銀行 張り合へ抜けの態

紙幣の山が大アクビ

石城地方の金融界は何等動搖の波にもまれず独自の底力を示して居たと云ふものゝモラトリアム明け後はどうなるかに就いて多少の懸念がなかつた。ばかりは云ひぬ、夫れかあらぬか平町の磐城、平、磐實、磐越等の諸銀行は店先きに手の切れさうな紙幣束を文字通り山と積み上げ、手ぐすね引いて待つ型であつたが實際案するより生むが易いの諺に洩れず何等平常と

異る處

なく、アツケラ閑とした平安さ、全く天才畫伯大森義夫氏の作品を廣く頒布

天才畫伯大森義夫氏の作品を廣く頒布

見事帝展に入選

白井遠平翁の令孫である新進の洋畫家大森義夫氏は東京美術學校在學中より出藍の譽あり廿三歳にして『三味線持てる女のポーズ』を帝展に出品して堂々大家の間に伍して見事入選したるを始め『文字と人形』『人物』其他異色の力作を出品入選したるが如き他の追従を許さざる氏の技倆は世既に定評ある處であるが今回平町に於

後援畫會

を催す事になつた因に頒布畫は甲種百圓、乙種七十圓であつて希望者は平町字田中町一山田盤磨氏方事務所へ申込まれ度しと

田目春松、木村守衛、三森虎雄、四家又一、柴田徳二、諸橋守次、關内正

關西の旅から

第一信)バラ色の私かな春の空気を呼吸しつつ、かげらうのやわらかな衣につままれて新緑の野を慕進した櫻が岡の遊子は

水道の恩恵で 傳染病が減少した

平町の比較統計

平町は數年前迄傳染病患者を多く發生せしむるに於て縣下屈指の町とされ腸チブスのみにて大正九年迄は年毎百名以上をだしてゐたが同十年には七十三、十一年五十、十二年三十三、十三年二十九、十四年二十三、と見よ逐年著しき激減を示し傳染病費も輕減され公衆衛生の方面から非常の好成績を收め得るに至つたが最も喜ぶべき此の現象を見るに至つた大なる原因は大正九年から水道が敷設され用水

メロン栽培

一般に普及

農試分場で極力奨励



人絹もの洗濯

人絹の洗濯をする時には、最初水一升の中にアルコール五六滴をませた液の中に浸し其の液が布にしみてから石鹼液で洗ひます、石鹼は普通のよろしくアルコールの代りに酒を盃一杯位用ゆるも差支へありません、石鹼液で洗つたらば次によく水濯ぎをなし尙其の光澤を出す爲に有機酸を通過させます、即ち白地布ならばじょう酸、色物ならばじょう酸を通じます、その分量は一升にしてう酸茶サジ半杯

注意を要する 有毒な飲食物

櫻村平警察署長談

吾々が生存して行くために飲食物は何よりも必要缺かされぬものであります。その大事な飲食物を賣る商人には時に不正な者があつて有毎な薬品を混せて品物をよく見せかけたり、又有毒な食物を賣つてゐる者があ

不正な

者があつて有毎な薬品を混せて品物をよく見せかけたり、又有毒な食物を賣つてゐる者があります。しかも我々は知らず識らずそれ等の飲食物を用ひてゐるのであります。食物を求めて時に注意し

割箸に

電柱の古物で拵へたものがあります。電柱は最初防腐の目的で硫酸銅を混入して拵へます、からその古物で拵へた割箸にも當然その硫酸銅を含有してゐます。その割箸一本には硫酸銅十耗、三本は三十耗を含有して居ります。硫酸銅の三十耗は吐劑になる程ですから、右のやうな割箸は

危険で

あります。またソノスには往々サツカリンその他有毒な防腐劑を入れたものがあります。蒲餘だとか薩摩あげ等には硼酸等を入れたものがあります。

過怠金徴収

濱三郡組合で

濱三郡木炭同業組合では平地方に出廻る木炭の品質が近來非常に粗悪となつたので本月はじめより四名の検査員を郡内各地に派遣し検査

少年が家出

水戸署で保護

昨夜十一時頃水戸署を徘徊してゐる少年があるので、町交番の巡查が不審を抱き取調ると石城郡小名濱町大字小港常八長男兼光男(と)と言ひ親に叱られた爲に家出して來た事を申したので水戸署で保護し親を呼んで引渡すと平署に照會があつた

愛好者激增

精神的の感化

平町地方では最近切花鉢植等の内外花卉の愛好者が激増して來たので専門副業としても草花の栽培は非常に有利なるものゝ一に數へられてゐるが一方それを社會的方面の見地から觀察するも草花愛好者の激增せるは誠に喜ばしき現象で昨今憂慮されてゐる悪化せる思想を善導化せしむる一端とも見らるべく草花栽培にそつて利する處は極めて甚大なものがある